

令和4年度(2022年度) 学校評価書

学校名	北海道札幌南高等学校（定時制）
-----	-----------------

学校関係者
学校評議員
5 名

1 学校教育目標

- 1 自然豊かな北方風土の中で、勤労と学業を両立できる強固な意志と逞しい体力を養う。
- 2 基礎学力を高め自己啓発に努めることにより、時代の進展に対応できる能力を養う。
- 3 豊かな情操をもって集団生活に適応し、社会の発展に貢献できる調和のとれた人格を養う。

2 スクール・ミッション

- 望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成
- 社会人としての基礎・基本を身に付け、時代の進展に対応し、社会の発展に貢献できる有為な人材を育成する。

3 年度の重点目標

- ICTを効果的に活用した教育活動を推進し、本校教育の質の向上を図る。

4 自己評価結果

評価基準 【A：達成している B：おおむね達成 C：やや不十分である D：不十分である】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準 【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準 【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない】

領域	重点事項	評価の観点	達成状況	自己評価	改善・充実の方策	学校関係者評価	
						(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ
Ⅰ 学習指導	①基本的な学習態度を身に付けさせ、学ぶ意欲を喚起する授業の工夫・改善を図る。	①授業規律を確保し、ICTを活用するなどして学びに興味・関心をもたせることができたか。	A		・全教職員で共通理解を図り、授業規律の保持に努め、落ち着いた状況を維持できた。 ・授業公開週間を設定し、教員相互の授業参観により授業改善へつなげた。 ・ICT活用の先進校視察を実施し、校内研修にて先進事例を全教職員で共有した。 ●今年度の取組を継続するとともに、ICT活用が苦手な教員に対する支援をしていく。	A	A
	②生徒が学習したことの意味や価値を実感できる学習評価を充実させる。	②3観点に基づく観点別評価を適切に実施することができたか。	A		・観点別評価の確実な実施、実施後の検証、次年度へ向けた改善を実施できた。 ●今年度同様の取組を継続する。		
	③各種検定を奨励する等、三修制の充実を図る。	③高卒認定試験説明会や個別添削指導を効果的に実施し、学校外学修単位認定につなげることができたか。	B		・三修制ガイダンス、高卒認定試験や検定試験に向けた個別課題添削指導を計画的に実施した。 ・三卒4名を輩出したほか、1・2年生でも高卒認定試験受検者が8名で合格率も非常に高かった。 ●さらに合格率向上へ向けて、放課後講習及び学習会を計画的に実施していく。		
	学校関係者の意見		・生徒の多様なニーズに応じたきめ細やかな指導と支援の成果が出てきているのでこれからも継続してほしい。 ・今年度のICTの効果的な活用へ向けた校内研修の取組の成果を次年度へ活かしてほしい。 ・三修制や検定試験へ向けた指導のみならず、社会に出て活躍できる基礎・基本を身につけさせてほしい。				
Ⅱ 生徒指導	①「生徒心得」を遵守させ、規律ある生活習慣を確立させる。	①HR担任と教科担任が連携を図り、挨拶・遅刻・欠席等の基本的な生活習慣を確立することができたか。	B		・職員室内で日常的に情報共有を行い、組織的かつ継続的に粘り強い指導ができた。 ・複数の教員による登校時の生徒への呼びかけにより、挨拶が非常にようになった。遅刻も昨年度より減少した。 ●今年度同様に粘り強い指導を継続して行う。	A	A
	②他者を尊重し、「いじめは絶対に許されない」という意識と態度を育成する。	②生徒情報交換会、教育相談等での定期的な情報共有により、積極的に生徒の状況把握に努め、迅速かつ組織的な対応を図ることができたか。	A		・月1回の生徒指導に係る校内研修会、定期的ないじめ防止委員会を実施し、特に未然防止策に力を入れた。 ・教員間で生徒の状況把握と情報共有ができ、迅速かつ組織的な対応ができた。 ●今後も取組を継続し、いじめを積極的に認知し、組織的な対応をする。		
	③情報モラルを身に付けさせる指導を適切に行い、インターネット社会に必要な態度を育成する。	③SNSに関わるトラブル防止について、HR指導、啓発活動、教員対象の研修等を適切に実施できたか。	B		・リーフレットを活用した定期的なHR指導、外部機関と連携したSNSに関する教室を実施した。 ●大きなトラブルは発生しなかったが、今後も未然防止策、トラブルに対する初期対応、事後の対応を適切に行う。		
	学校関係者の意見		・様々な困難を抱えて入学してくる生徒に対して、今後も粘り強く基本的生活習慣を身につけさせる指導を継続してほしい。 ・日々の教職員の適切な生徒理解と粘り強い指導の積み重ねが成果となって表れている。 ・SNS利用や情報モラル指導については、継続的な啓発と未然防止策を行うことでトラブル防止に努めてほしい。				
Ⅲ 進路指導	①関係機関との連携や進路情報の提供を充実させ、自ら進路選択する能力を育む。	①企業・学校訪問や進路学習により、自らの進路に対する意識を高めることができたか。	B		・昨年度に引き続き、札幌高等技術専門学院と連携した体験活動、外部講師4名による進路講演会を実施した。 ・今年度は職業体験活動を実施し、さらに進路に対する意識を高めることができた。 ●職業体験活動の受け入れ先の開拓により、更に体験活動を充実させる。進路だよりを通じて保護者に対しての情報提供を充実させる。	A	A
	②各種活動を通して、社会に出て通用するマナーを身に付けさせる。	②進路講演会、ボランティア活動、個別面談等を通して、場に応じた言葉遣いや態度を身に付けることができたか。	B		・認知症サポーター養成講座、凍結路面への砂撒きボランティア等を実施した。 ・日常から思いやりの心を持って行動することの大切さを認識させることができた。 ●今年度同様の取組を継続していく。進路だよりを通じて保護者に対しての情報提供を充実させる。		
	③生徒の適性・ニーズを的確に把握し、進路支援体制の深化・充実を図る。	③進路相談会や三者面談を計画的に実施し、進路指導部と担任団との連携・強化を図ることができたか。	A		・進路相談員による進路学習や三者面談を実施し、就職希望生徒の早期からの事前指導により、内定につながった。 ●今年度同様の取組を継続していく。		
	学校関係者の意見		・職業体験活動を導入したことは評価できる。教育効果が高まる取組となるように反省点を改善し、進化させてほしい。 ・職業に對しての考え方が親子での相違がみられるので、生徒のみならず保護者に対しての情報提供を充実させてほしい。 ・高校卒業が大きな目的となり、進路決定が遅れる生徒に対して、早期からキャリア形成の必要性を粘り強く指導してほしい。				
Ⅳ 健康・安全指導	①感染症予防および健康管理の意識を高め、学業と就労との両立を支援する。	①「さあチェック」や健康相談、保健だよりを活用し、自分自身の健康状態を把握することができたか。	A		・Google Formsを活用したセルフチェックシートで健康状態の確認を毎日徹底した。 ・養護教諭による定期的な健康相談を実施した。 ・感染症拡大防止対策を全教職員が共通理解のもと実践することにより、教育活動の継続と全ての学校行事を実施できた。 ●今年度同様の取組を継続していく。	A	A
	②自他の生命の尊さを理解させ、危機管理能力を高めさせる。	②防犯教室、防災教室、SOSの出し方教室等を通して、具体的な方策を学ぶことができたか。	A		・スクールカウンセラー、札幌市総合若者支援センター職員、道警サポートセンター職員と連携した取組を実践できた。 ・担任による個人面談週間のみならず、校長及び教頭による生徒面談も実施することで取組を充実させた。 ●今年度同様の取組を継続していく。		
	③学校給食指導を通して、食生活の重要性やマナーを認識させる。	③給食だより等を利用した食育を通して、食に関する知識や興味・関心を持つことができたか。	B		・養護教諭、給食調理員、HR担任が連携し、食に関する適切な支援を行うことができた。 ・給食利用生徒の減少の課題を給食委員会を中心に取り組み、改善を図った。 ●給食利用生徒数増の取組と学校における食育の両立を継続していく。		
	学校関係者の意見		・感染症拡大予防対策と教育活動の継続の両立できたことは評価できる。 ・義務教育終了後の学びを保障する「最後の砦」として、生徒の心の中を見守る教育活動を継続してほしい。 ・給食利用促進の取組は評価できる。今後も更なる取組の充実を期待する。				
Ⅴ 働き方	1 ワークライフバランス(仕事と生活の調和)の視点を取り入れ、勤務時間を意識した働き方を推進することができたか。		B		・業務内容の平準化や精選に努め、時間外勤務が45時間を超える教員がほとんどいなかった。 ●今後も、協働意識を高め、勤務時間を意識した働き方ができる組織の構築を図る。	A	A
	2 計画された部活動休養日等を完全実施して、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長に配慮することができたか。		A		・定時制における部活動の目的を明確にし、計画された部活動休養日等を完全実施することができた。 ●今後も生徒のニーズや心身のバランスに配慮した活動と、休養日等の完全実施に努める。		
	学校関係者の意見		・教職員の心身の健康と笑顔が生徒への最大の教育効果をもたらすので、ワークライフバランスを大切にしてほしい。 ・部活動休養日等を完全実施をしたなかで、軟式野球部の全国大会出場は評価できる。取組を継続してほしい。				